

# 令和7年度射水市廃棄物減量等推進審議会 議事録

## 1 開催日時

令和7年12月25日(木) 午前10時から11時40分まで

## 2 場 所

ミライクル館 会議室

## 3 出席者

(委員)

- ・川上 智規 (富山県立大学名誉教授)
- ・寺林 志朗 (射水市地域振興会連合会 副会長)
- ・沖 和美 (いみず女性ネットワーク 会長)
- ・串田 伸男 (射水市環境衛生協議会 会長)
- ・古森 恵子 (射水市商工会女性部 部長)
- ・今井 秀一 (射水商工会議所総務課 課長)
- ・加治 秀夫 (射水市一廃収運業者協議会 会長)
- ・若林 泰山 (射水リサイクル協会 会長)
- ・中山 純一 (富山県環境科学センター 所長)

(事務局)

- ・市井 秀明 (市民生活部 環境課長)
- ・杉浦 寛之 (環境課 環境保全係長)
- ・林原 敦夫 (環境課 主査)

## 4 欠席者

- ・福田 靖子 (射水市食生活改善推進協議会 会長)

## 5 配布資料

- (資料1) 令和6年度射水市一般廃棄物の処理の概要
- (資料2) 令和7年度射水市一般廃棄物処理実施計画
- (参考資料1) 第11期射水市分別収集計画

## 6 議題

- (1) 令和6年度射水市一般廃棄物の処理の概要
- (2) 令和7年度射水市一般廃棄物処理実施計画

## 7 報告

- (1) 第11期射水市分別収集計画
- (2) 最終処分場整備について

## 8 質疑応答及び意見の概要

委員	資料1の令和6年度射水市一般廃棄物の処理の概要において、家庭系の燃えるごみ直接搬入量が増加していますが、地震の影響であるのか。
事務局	令和5年度に比べて令和6年度の家庭系燃えるごみ直接搬入量が増加しているのは、令和6年1月に発生した能登半島地震により使用できなくなった物をクリーンピア射水に搬入されるケースが増えたものと分析しています。
委員	資料1の11ページの市民1人1日あたり家庭系排出量が増えたものも同じ理由なのか。
事務局	1人1日あたり家庭系排出量は、家庭系の燃えるごみ、燃えないごみ、埋立ごみの排出量合計から算出したものです。これにつきましても能登半島地震により家庭で使えなくなったものや、灯籠等の埋立物が増えたのではないかと推測しています。
委員	この資料の中身とは関係ないのですが、今後地震が起きたときに災害ごみの仮置場は確保されているのか。
事務局	射水市では、能登半島地震やそれを上回る災害等に見舞われたときに発生したごみをどう処理していくかということを様々なケースを想定して災害廃棄物処理実施計画で定めています。能登半島地震においてはクリーンピア射水の南側に災害廃棄物の仮置場を開設しております。もっと大きな地震被害等が発生したときは射水市内の都市公園に仮置場を設置することを想定しています。どの公園に設置するかということは時々の被害状況に応じて設置するということを定めています。
委員	資料からごみの減量が進んでいるのが見て取ることができる

	が、その要因を市ではどのように考えているか。人口が減っているからなのか、地域の活力が減ってごみを出さなくなっていたり、ごみが減った分が不法投棄されてたりするのではないか。
事務局	<p>10年前から比べれば市民1人1日あたりのごみ排出量が減ってきていているが、市民1人1日あたり資源物排出量にも注意している。ごみ排出量が減る中で1人1日あたり資源物排出量が極端な減り方をすると、リサイクルがなされずごみになっている可能性もあるので資源物排出量の動向を注意している。</p> <p>令和4年に制定されたプラスチック資源循環法では、プラスチックごみの排出の仕方が変わってきており、射水市ではプラスチックのリサイクルを容易にするためにプラスチック製品と容器包装の一括回収を開始しました。国では、製造者が製品に使われるプラスチックをリサイクルしやすい設計をするための基準が定められました。また排出抑制の動きも広まっており、例としてはホテル等で宿泊したときに、部屋にアメニティグッズを置いておくのではなく、希望者に渡すという取組が広まっています。こういった様々なごみ減量化の取組が進んできていることもあり、資源物の回収量が減ったことが市民の皆様のリサイクル意識が低下しているという判断は尚早かと考えており、排出抑制の影響も勘案しながら今後のごみの回収を進めていきたいと考えています。</p> <p>不法投棄につきましては、不法投棄の発生しやすい山間部と河川、海岸地区において自治会の皆様に不法投棄監視員になっていただいて報告をいただいている。年によってばらつきはありますが近年は減少傾向です。</p> <p>地域活動が減少傾向にあるという面については、集団回収においてコロナの頃からそういった傾向にあります。PTAの活動等で役員や子どもが各家庭をまわって資源物を回収しておられたのですが、感染を避けるために手渡ししてはいけないという話になり、縮小されていきました。団体によっては高齢化により担い手が不足しているという状況も見受けられます。行政は地域の皆様のご協力を 통하여良くなっていくものであり、各方面で地域の活力が戻る施策を講じていきたいと考えています。</p>
委員	市では今年度からひとり暮らしの高齢者の戸別収集に取り組んでいるが現状はどれぐらいの申請者がいるのか、またレジ袋削減を目的として、コンビニエンスストアでレジ袋の代わりとして市指定の可燃ごみ袋を1枚ずつ販売する取組を行っているが、どう

	いう方が買われるているのか知りたい。
事務局	<p>令和7年8月からひとり暮らしの高齢者の戸別収集を試行実施しており、ひとり暮らしの高齢者で要介護認定を受けた方を対象としています。現在収集を開始した方は46世帯です。</p> <p>県内では高岡市が先行して取組を行っており、実施内容を参考にさせていただきました。人口規模比から射水市では50世帯を想定しており予定通りの申請状況です。市ではこの事業の試行により戸別収集について情報収集や研究を続けていきたいと考えています。</p> <p>コンビニエンスストアでレジ袋の代わりとして市指定の可燃ごみ袋を1枚ずつ販売する取組につきましては、レジ袋削減の取組が進んでいる中、コンビニエンスストアで商品を買ったものを入れるレジ袋は未だに燃えるごみの中に混ざっています。商品を詰める袋を燃えるごみの袋にすることによって、レジ袋を使わなくとも済むのではないかということで、セブン-イレブンの協力を得て今年12月から取組を始めたところです。集計データーはまだありませんが、賛同される方が購入されているとのことです。この試みについてはごみ量の削減という目的以上に、環境意識の向上に期待しています。</p>
委員	<p>業者は40年前は資源回収で布を集めていたのが、現在は低価格でしか売れなくなり経費が貰えないため、ほとんどの業者が取り扱えなくなっているという状況にあります。布や衣類は多くが燃えるごみに混ざっていると思います。</p> <p>紙や缶についても、団体の実施する資源回収の回数は去年と同じであっても、そこに出される資源の量が減っているので、近年高騰している車両代や人件費を念出することが難しくなっている。</p> <p>自分の会社にはエコストーションがあり、紙類やプラスチック資源等を個人持込で非常に多くの方に利用してもらっており大量に集まるのだが、逆に言えば利用者は資源回収団体の資源回収や市のリサイクルに出していない。団体で行う活動として資源回収に参加したり出したりするのではなく、個人の考え、個人の時間の都合でリサイクルステーションに出しに来ており生活の個人化が進んでいると考えている。資源回収はいずれ誰もしなくなるので、リサイクルステーションを増やした方が良いと感じる。</p>
事務局	大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。資源回

	収に関するあり方について、様々な視点から検討してまいります。
委員	<p>不法投棄のような廃棄物不適正処理については、外国人の方にルールを伝えていく努力を続けていくことが必要だ。外国人の事業者がクリーンピア射水に廃棄物を搬入することが増えていないのか。</p>
事務局	<p>射水市では外国人の方が増えている状況で、各自治会から外国人の方にごみの出し方を説明するカレンダーはないのかという問い合わせも増えてきており、外国人向けのカレンダーをお渡ししています。</p> <p>外国人の事業者がクリーンピア射水に廃棄物を搬入するケースは従前より増えてはいるのですが目立って増えているということはありません。</p> <p>外国人の方だと思われる不法投棄の防止については効率的なものはないが、官民合同パトロールなどこれまでの活動を今後とも続けていかなければいけないと考えています。</p>
委員	<p>自分の店は纖維を取り扱っているので布の資源回収の現状についての話には共感できる。また自分の経営する店でも商品を包装する袋を使うことがあり、市指定のごみ袋のようなものを商工会でも取り扱うことができるようにならうかとも思う。</p>
事務局	<p>射水市指定の燃えるごみ袋はカーボンニュートラルの観点からサトウキビから出る油脂を10%が使われています。レジ袋の変わりに1枚売りしている射水市指定の燃えるごみ袋は小の大きさで、手提げ式でレジ袋のようなデザイン・形にしています。この取組につきましては、皆様のご意見を取り入れながら有用な形で継続していきたいと考えています。</p>